

2022年度 上田市立 丸子北小学校 自己評価シート

めざす子どもの姿（中期的目標）	
一、仲良く助け合う子	○しっかり考え、自分から動ける子ども ○力を合わせて粘り強く追究する子ども ○自分やまわりの人を大切にできる子ども
	今年度の重点目標
二、進んで学び、自分の考えが言える子	1 「学力向上」に向けて日々の授業を見返し、改善してきたか。
三、最後までやり抜く子	2 「自分自身と向き合い自分を成長させる時間」になるよう、心みがき清掃に取り組んできたか。
	3 「言葉遣いやマナーを意識した主体的な挨拶を実践」できるよう取り組んだか。
	4 「お互いを認め合う学級づくり」をめざし、工夫してきたか。

領域	対象	評価項目	評価の観点
学校教育	学習指導	基礎的な学力の定着	学力の向上をめざし、子どもたちが「わかった」「楽しい」を実感する授業を実施してきたか
			家庭学習の習慣をつけるために、「15分×学年」を目安に、家庭と協力しながら発達段階に応じた課題の工夫をしているか
生徒指導	より良い人間関係づくり		子ども達が楽しい学校生活を送れるように、一人ひとりが存在感をもち、学び合える雰囲気
			子ども達が、安心して生活できるように、学級の人間関係に敏感になり、児童の心に寄り添った支援をしてきたか
学校運営	地域との連携	学校からの情報発信	学校は、日頃の学校教育の理解や信頼を得るために、学校便り・学年便り・ホームページ等で、学校の様子を伝えているか
		安全安心対策	学校は、毎日の下校指導や地域の「安全見守り隊」と連携して、事故防止や安全指導を進めているか
	研修	授業改善と児童理解	教師は、学習指導や生徒指導等で研修したことを、日常の授業に生かしているか
		職員の綱紀粛正	「非違行為防止」に努めているか
支相談	子どもや保護者への教育相談	保護者や子どもからの相談に対して、関係職員や関連機関とも連携しながら、適切な対応をしているか	

総合評価					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
○全校で重点活動としている「心みがき清掃」に取り組み4年目となりました。毎日、振り返りの時間を大切に位置付けてきていることにより、児童は自己を見つめながら主体的に取り組む姿が見られるようになってきました。その活動経験が生かされ、清掃活動にとどまらず、様々な活動において児童の自主性が伸びてきていると感じます。今後もさらに、子どもたちの学びの姿をあたたく見守り、認め、励ましていきたいと考えます。 ○「個別の指導計画研修」「外部講師による学びあい学習研修」などを通して、職員が児童個々の捉え方や向き合い方についての研鑽を深めると共に「授業のユニバーサルデザイン化」を図ってきました。それにより、見通しをもって主体的に活動に取り組む児童の姿が多く見られるようになってきました。コロナ禍により、様々な制約はありましたが、今後も個に寄り添いながら、また、保護者や地域と連携しながら、子どもたちのよさをさらに伸ばしていけるよう、努めていきます。					今後も、児童の実態に合った課題を設定し、基礎・基本の力を確実に身に付けていくことはもちろん、タブレットを有効に活用する授業の在り方を模索しつつ、主体的で対話的な学びを実現していきます。
「教師主導型からの脱却」をめざし、「学び合いの学習」や「Q-U」等の校内研修を実施したり、一人一公開授業を実施したりして授業改善に取り組んできました。		○			引き続き職員の輪番による週一回の放送や、児童会活動等で個々の取り組みや振り返りの良さを全体に広めるとともに、職員研修などを通して指導に当たる際の共通理解を醸成し、指導のマンネリ化を抑え、通り一遍にならないように全校の意識を高めていきたいと考えます。
日課に「振り返りの時間」を位置付け、毎日自己を振り返ることで、自己と向き合う姿が多く見られるようになってきています。異学年と一緒に清掃する機会を定期的にとることで、お互いの取り組みから学び合うことができました。		○			児童の評価では肯定的回答が91%、保護者は81%、職員は86%、となっており、昨年度よりもわずかですが増加しています。今後もあいさつの在り方について具体的な評価内容を定めて取り組みを丁寧に行っていきます。
各担任が挨拶の際に名前を付けて交わすなどの工夫をしたり、児童会でも全校で楽しみながらあいさつする活動を実施したりして、積極的なあいさつを交わす工夫をしてきました。			○		否定的な回答をした2%の児童への対応を研究しながら、「Q-U研修」や「特別支援教育研修」などを行い、「児童理解」を深め、お互いを認め合える学級づくりに努めていきたいと考えます。
「学校が楽しい」と答えた児童が98%に達しました。「Q-U研修」等、「学級づくり」の取り組みの成果が少しずつ表れてきていると思われます。			○		
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
授業改善に向けて「教師主導型の授業からの脱却」を目指し、外部講師を招聘して職員の意識改革や、児童へのかかわりの具体について研究に取り組んできました。「勉強があまりわからない」「わからない」と答えた7%の児童への対応が課題です。		○			児童一人ひとりの実態を丁寧に把握し、個に応じた支援や指導を行っていきます。また、「一人一公開授業」により、お互いの授業を見合うなどして日頃の授業を見返したり、研修の機会を設けたりして授業改善に努め、教員の資質向上を図っていきます。また、専科教員、支援員等を活用し困り感のある児童への支援を工夫していきます。
宿題の実施については、否定的な回答をした児童が、23%となり、昨年度より6%増えました。学習習慣の定着をさらに図るため、「つむぐ」の活用をさらに推進すると共に、家庭との連携をどのように工夫していくかが課題です。			○		今後も、各学級・学年で児童の実態を丁寧に把握し、課題に合った内容の宿題を出したり、「つむぐの活用」を継続して活用し、家庭状況も考慮しながら、全職員で共通意識をもち、積極的に活用したりしていきます。
お互いのよさを認め合える活動を大切に位置付けて取り組んできました。児童アンケートでは肯定的な回答の児童が93%に達しました。これからも児童の豊かな人間関係を、いかに育んでいくかが課題となります。			○		児童の評価で否定的回答の7%の児童について心を寄せ、安心していられる場所づくり、活躍できる場面づくり等、人間関係作りを担当がさらに工夫していきます。また、全職員で情報共有して見守っていく体制づくりに努め、家庭とも連携しながら、楽しい学校生活が送れるよう丁寧に支援していきます。
「褒める」「受け止める」を大切にしながら、日頃の声掛けや学習支援を行うなど、より良い人間関係づくりができるよう心掛けてきました。			○		児童の声に耳を傾け、日々の児童理解を丁寧に行い「北小っ子タイム」や「Q-U」等も活用しながら、児童が主体的に物事にに関わり活動していけるように、一人ひとりに寄り添った支援を行う努力をしていきます。
「学年便り」や「学校便り」、「学校HP」など、定期的に発行・更新するよう心掛け、積極的に情報を発信するようにしてきました。また、メール配信を活用し、こまめに丁寧な情報配信に努めました。保護者の好評価が97%に達しました。			○		「メールの配信が丁寧で分りやすかった」「何かあると担任からの丁寧な連絡をしていた」等、家庭との連携について評価していただきました。今後も、子どもたちの頑張っている様子をお便りや学校HPなどを使って積極的に家庭や地域へ発信していきたいと考えます。
児童の好評価が99%に達すると共に、昨年度同様にD評価が0となりました。保護者のAB評価は84%に留まっており、継続的に具体的な安全指導の重要性を感じます。			○		家庭や地域との連携を密にしながら、日々の安全指導や事故防止に努めていきます。また、不審者情報など、安全にかかわる内容については、今後も迅速に対応するよう努めます。
今年度は、対外的に授業公開をする機会に多く恵まれ、授業改善に向けての研修を重ねることができました。また、麻布教育研究所長の村瀬先生を招聘して「学び合い」の校内研修も行うことができました。校内で学級経営や児童理解について継続的に研修をしました。			○		今後も、村瀬先生のご指導を継続し、教師一人ひとりの力がさらに向上するよう、外部講師から学ぶ機会を大切に校内研修を充実させ、各種研修会へ積極的に参加していきます。また、日々の児童理解に加え、客観的結果や資料等も活用しながら児童理解を深め、学級経営や授業に活かしていきます。
職員会で短時間の研修実施する等してきましたが、職員評価の達成度が93%と若干上昇しました。児童へ向ける言葉等にさらなる配慮が必要だと考えられます。			○		職員の間僚生や関係性を高めながら、非違行為防止に向けて計画的に研修を積み重ね、事例や対応の具体について学びあうように、引き続き全職員で取り組んでいきます。
児童や保護者の話を丁寧に聴いたり、定期的に懇談や支援会議を開いたりするように心掛けてきました。			○		今後も、子どもたちや保護者の声にしっかりと耳を傾け、誠心誠意対応していきます。